

ハッピーウーマンサークル（金城学院大学）

活 動 実 績 調 書

(1) 活動名	生活経済リテラシー向上委員会 2023
(2) 活動の目的・成果（※何を目指し、何が成果として得られたかについて記載）	
本活動では、学生主体の金融講座の提供により、瀬戸市民の生活経済リテラシーを向上させることを活動目的とした。また、学びを実生活で生かせるような身近さを大切にできるように取り組んだ。期待する成果は3点ある。第1点目は、参加者となる瀬戸市民が疑問に思うことを学生と一緒に学んでいくことができる点である。私たちは、学生でありプロの講師ではないため、質疑応答も聞きやすい場となった。第2点目は、講座を担当する学生自身が深い学びを得ることができる点である。大学では、講義の内容を聴講（インプット）する機会が多い中、市民に説明（アウトプット）することで、疑問をなくすための自発的な学びができた。第3点目は、講座を継続的に開催することにより、瀬戸市民が金融の知識に触れる機会が多くなること、広告などで目にする機会も増え、より多くの人に金融の知識に興味を喚起させられることである。金融に関する知識をつけてもらうことにより、将来の生活を豊かにする新たな選択肢を提供できるきっかけとなった。	
(3) 活動の実施内容（※活動の実施方法、時期、場所、回数、市民等への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	
事前に実施したニーズ調査に基づいて講座のテーマを選定し、講座内容の構築と教材の作成に取り組み、一度リハーサルを行い、改良を重ねたのちに本番の講座を迎えた。学生参加予定人数は6名とし、本学生活マネジメント学科の学生2～3年生で構成した。会議は月に2～3回程度行い、時期によって臨機応変に開催した。原則として、対面開催を予定していたが、遠方から大学へ通う学生も参加しやすいオンラインと対面の同時活用とし、メンバー全員で本番に向けて備えた。活動の手順は以下のとおりである。 1. 生活経済リテラシーニーズの把握：7月～9月上旬 瀬戸市在住の社会人（20～60代）を対象とし、生活経済リテラシーに関する理解度や講座で知りたい分野のニーズを把握した。ニーズの把握にあたり、パルティセトで行われているイベントの前後、市役所の方、金城学院大学のオープンキャンパスに参加した学生・保護者などへの声掛けなどによりアンケート収集の依頼をした。回答形式は、Google form・アンケート用紙を活用し、匿名とした。 目的：各ライフステージに応じた生活経済リテラシーニーズの把握 背景：年齢や階層により、必要としている学び、情報が異なるため、各ライフステージに応じたニーズを把握することが質の高い講座提供につながると考えた 2. テーマの選定・トライアル講座の作成：9月中旬 「1. 生活経済リテラシーニーズの把握」で得た結果をもとに、需要があると見込まれたテーマを導入した。昨年度同様、配布テキストも各講座に向けて学生自らが作成した。著作権違反の防止や誤った情報の提供が無いよう、金城学院大学 生活環境学部 生活マネジメント学科の古寺浩教授・小田奈緒美准教授が監修を行った。 3. 講座参加者の予約システム構築：10月 Google formにて予約システムを構築し、アクセス用QRコードを、広報ツールに添付した。質問事項を確定させ、フォームの中に反映した。また、参加者には日程が近くなった際に詳細をお送りできるようフォーマットを作成した。なお、参加希望者情報の一覧はスプレッドシートで管理した。 4. リハーサルの実施（2回）・フィードバック：11月・12月	

1 リハーサルを行った。本番に行く参加者より少人数として、実施した。場所は瀬戸蔵を借り、プロジェクターと書画カメラを用いながら講座を進めた。一回の講座の参加者を 5～10 名とし、45 分を 1 セットとした。参加者には、満足度アンケートへの回答を求め、感想を含むフィードバックを依頼した。いただいたご指摘は、本番講義で生かすべく、進行プログラムやテキストなどの修正に活用した。

2 動画撮影

講座開催日程の都合が合わず参加できない方に向けて、金城学院大学にて講座を実施し、講座の様子を撮影した。

5. 広報ツールの作成・印刷（発行）：10～1 月

1 ポスター広告

ポスターデザインを作成し、講座開催日時や場所などを記載した。なお、申し込みフォームへアクセスできる QR コードも添付した。

2 ポツ、広報せとなどの大きなメディアや瀬戸市内の公共施設へチラシを配布し、掲載した。

3 Instagram などの SNS を使用した広報

若い世代に Instagram を通じて知ってもらうよう工夫した。

6. 生活経済リテラシー啓発冊子の作成：10～1 月

本番講座のテキストとしても用いる冊子を作成した。トライアル講座を踏まえた修正を施し、講座に参加しない人にも手に取ってもらえるような内容を目指した。毎年金融に関する情報が更新されるため、今年度も作成した。

7. 本番講座の実施・撮影：1 月

参加人数を 20 人程度として実施した。場所はパーティセと市民交流センターの大会議室を借り、プロジェクターを用いながら講座を進め、撮影した。「6. 生活経済リテラシー啓発冊子」をテキストとし、配布した。トライアル講座を踏まえた本番講座を行い、実施後には満足度アンケートして、本活動の意義や需要について第三者の意見を収集した。

8. 報告書の作成：1 月下旬～2 月中旬

全体を通してのまとめとして報告書を作成した。ニーズを把握収集したアンケート結果や満足度アンケートの結果、講座で扱った内容や資料などについて書面にまとめた。また、当初定めた目的が達成できているかについても言及した。

（4）活動実施上の工夫（※活動の趣旨・目的達成のため、特に創意工夫した点について記載）

私たちは先輩がつなげてくれた学生の視点を大切に、学生主体のファイナンシャルプランニング講座を行い、瀬戸市民の生活経済リテラシーを向上させることを目標とし、実際に受講者様から「関心はあるけれど、なかなか人に聞けない内容と手軽に教えてもらうことができて良かったです。」との言葉を頂けた。講座を実施する学生は、ファイナンシャルプランニングについて学習している。実生活で生かせるような実用的知識を身につけられるよう、受講者に寄り添う双方向的な講義を展開し、共に知識と理解を深める機会となった。

昨年度は参加講座人数にばらつきが目立ったため、ニーズの多い分野を厳選し、多くの関心があった分野のニーズに沿った内容を企画した。

昨年度、講座の中でアンケートを取ったところ、ふるさと納税や iDeCo をやったことがないという回答が多かった。講座受講者は、「金融に関して学んでみたい」と、きっかけとして考えている人が

多いと感じたため、初めの一步の機会として今回の講義を設けた。

また、今回は参加できなかった方、もう一度見たいと考えて下さる受講者様に向け、講座の動画撮影を行った。動画は限定公開とし、対象者の方のみご覧いただけるようにした。瀬戸市民の方が手に取りやすい場所に今回作成した教科書と共に動画のリンクへ飛ぶことのできる QR コードの配布、受講者様に直接動画のリンクをメールにて送付した。

(5) 活動実施上の反省点 (※具体的な反省点等について記載)

- ・開催日程を増やしてほしいとのお声をいただいたため、もし次年度も行うのであれば、複数日程設けたいと考える。
- ・昨年度同様の広報を行った結果、集客がうまくいかなかったため、広報方法の工夫が必要になってくると感じた。
- ・ニーズ調査を一部紙媒体でも行ったが、データの収集や管理に戸惑うことがあったため、すべてグーグルフォームで行うなど統一した方が良かった。
- ・計画通りに実施するための準備や下調べが大切だと感じた。